

## シルクロード・ネットワーク・鶴岡フォーラム 2018 のご案内

当調査会では、昨年の福島フォーラムに続き今年山形県鶴岡市で開催いたします。鶴岡市は東北で福島市と並ぶ養蚕都市で、明治維新後、庄内藩の武士は養蚕で地域経済を立て直します。その拠点松ケ岡開墾場です。そのDNAは今も鶴岡市民に引き継がれ、歴史を生かしたまちづくりを推進しています。

見学会、講演会、シンポジウムと盛りだくさんの内容で、楽しい会になること請け合いです。皆様のご参加をお待ちいたしております。

今回のフォーラムのテーマとスケジュールを概要でお伝えします。

フォーラムは『「シルクロードでつなぐ街と人」鶴岡の絹産業遺産の再生・活用・継承を学ぶ』と題して平成 30 年 6 月 23・24 日の両日で行われます。23 日は鶴岡のまちなみや松ケ岡開墾場を見学し、翌 24 日はフォーラムを開催します。基調講演や事例報告が行われる予定となっております。

なお、詳細なお問い合わせ・お申込みは、ヨコハマヘリテイジ事務局までお願い致します。お申込みは ☎、FAX、メールでお願いいたします。

ヨコハマヘリテイジ事務局の 電話・FAX 045-651-1730

Eメール yh-info@yokohama-heritage.or.jp

このフォーラムは、ヨコハマヘリテイジの主催です。会員の皆様もぜひご参加下さい。



松ケ丘開墾場蚕室



致道博物館の田舎民家

### 歴史を生かしたまちづくり相談室のご案内

当横浜歴史資産調査会では、横浜市と連携し、歴史的建造物の保全活用など歴史を生かしたまちづくりに取り組んでおります。

近年、歴史的建造物を取り巻く状況は大きく変化し、所有者の抱える悩みも複雑化・深刻化してきています。こうした状況を少しでも打開すべく、歴史的建造物所有者等を対象に、専門家や関係団体、行政が連携して具体的な対応策について提案していきたく考え、まちづくり相談室を開設致しております。相談は無料で、どなたでもお申込みいただけますのでお気軽にどうぞ！

ご相談内容の送付は、公益社団法人横浜歴史資産調査会内「歴史を生かしたまちづくり相談室」係まで

相談方法については、ヨコハマヘリテイジのホームページに直接入力または相談シートに必要事項をご記入し、郵送、e-mail、ファクシミリ等でお申込み下さい。電話・FAX (045-651-1730) による相談も可 (毎週水曜日)

相談内容例としては、自宅の歴史的価値の有無を調べてほしいとか、建物は残したいが相続の関係で持ち続けることが困難なので良い方法がないか？とか、歴史的建造物の改修を任せられる腕のいい職人を教えてほしい、など歴史的建造物に関わるものであればどのようなことでも OK です。

ご相談の対応については、専門家、ヘリテイジ職員、横浜市都市デザイン室職員等が相談内容を検討し、応じることにしています。必要に応じて現地確認や詳細のヒアリング、アドバイザー派遣等をする場合もあります。

送付先 〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号室  
電話・FAX 045-651-1730

#### ★多額のご寄付ありがとうございます。

後藤治様、多田真太郎様、恵良隆二様、大西章夫様、小川貴司様、  
高村典子様、勅使河原祐実様、長井幹様、木阪尚志様、轉恵子様、匿名

### 【ヨコハマヘリテイジスタイル 2018 春号】 平成 30 年 3 月 31 日 発行

公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ) 〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号  
Tel : 045-651-1730 mail : yh-info@yokohama-heritage.or.jp

### ヨコハマヘリテイジ・セミナー2018

#### ～光り輝く近現代 歴史的建造物は宝～ が開催されました



大岡川の景観にマッチした  
都橋商店街の姿



主催者挨拶を行う公益社団法人  
横浜歴史資産調査会吉田鋼市副  
会長

平成 30 年 2 月 23 日 (金) 横浜市開港記念会館にて標題のセミナーが開催されました。本セミナーは当調査会が取得した「野毛都橋商店街ビル」を歴史的建造物として保存活用するためのスタートを記念して行われたものです。

当日は約 80 名の参加者とともに、近現代の保存建築物の実態やその経緯等を基調講演、パネルディスカッションを通して明らかにし、今後への展望等を話し合いました。

#### 基調講演 横浜の都市型保存建築に学ぶ

##### 一近現代歴史的建造物の保存手法について一

内田青蔵 (神奈川大学教授・公益社団法人横浜歴史資産調査会社員)



横浜は近代建築の保存建築をランドマークとして新しい都市計画に取り入れた意欲的な都市づくりを展開してきました。今日、この保存対象となった建築の枠組みが戦前期から戦後へと拡がり、より身近な建築の保存再生やその利用方法等が大きな課題となってきました。

そうした中、いま横浜で建築保存建築物の利活用を担う公益社団法人横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ) は、1964 (昭和 39) 年竣工の野毛都橋商店街ビルを取得し、その保存活用を開始いたしました。このことは先の動きを象徴する出来事であるとも言えます。

こうした建築の保存活用にあたって、横浜で行われてきた保存活用の方策や手法等を概観しながら、改めてヨコハマらしさをどう展開すべきかを考察してみたいと思います。

これまで良くも悪くも横浜の保存建築物については「腰巻保存」と言われたように低層部に外壁を残し、背後に高層建築を構える保存手法を確立してきました。こうした手法は当初は揶揄されましたが、現在では逆に横浜らしさを表す保存手法として認知されてきたように思われます。さらに曳家手法も取り入れたりして、保存手法の多様化も行われてきました。

横浜は全国に先駆けて建築保存を展開してきましたし、新しい手法も積極的に取り入れてきました。こうした流れを戦後建築の保存にも受け継いでいただきたいと考えております。

このような展開で横浜らしさを述べてきましたが、テーマにもある都市型保存建築をどのようなコンセプトで次代に繋げていくか、これからの時代の流れに対して「新しい次代へのスローガンづくり」、つまり新しい建築と以前から受け継がれてきた建築が共存する当たり前の時代と社会を創っていくべきではないかと思うわけです。スクラップ・アンド・ビルドからキープ・アンド・チェンジ (維持・継承と所有者交代・建物の機能変化) へと。

パネルディスカッション

パネルディスカッションは、戸田啓太氏（株式会社山手総合研究所）、藤岡泰寛氏（横浜国立大学准教授）、大平茂男氏（協同組合伝統技法研究会代表理事）、渡邊研司氏（東海大学教授・DOCOMOMO Japan 幹事長）の4氏による話題提供という形で各々20分程度のレクチャーを行い、その後コーディネーターの鈴木伸治氏（横浜市立大学教授・公益社団法人横浜歴史資産調査会理事）を加えてのセッションが行われました。

話題提供

戸田氏からは、「近現代建物調査と野毛都橋商店街ビル」というテーマで、これまで行ってきた近現代建造物の緊急重点調査の内容、これまでやられてきた神奈川県内の歴史的建造物調査の概要、さらに野毛都橋商店街ビルを調査対象として推薦してきた経緯などを報告され、こうした調査等は今後も追跡して行われるべきであると報告されました。

藤岡氏からは、「横浜の防火帯建築群」に関する詳細な報告がなされました。それらは戦後の原風景、つまり接收から復興への時代背景のもと、防火帯建築が試みられた経緯、形態、街区構想など計画的な観点からなされたとの報告がなされました。

大平氏からは、「古河の蔵の保存と活用」というテーマで報告され、蔵に対する修理・活用の基本的な考え方を具体的な事例を示しながら行われました。同氏は、修理・修復を行う中で得られた知見として、歴史を刻んだ全ての建物には価値があるという信念を持つようになったこと等を報告されました。

渡邊氏からは、同氏が関わっている山梨文化会館（丹下健三設計）という一つの建物を通して見る「山梨文化会館100年計画 近代建築保存と活用に向けての提案」と題するテーマで話されました。山梨文化会館は100年という長期的視野にたった観点からビルドアップされながら使われてきた建物で、時代にあわせながら改修・増築等を進めてこられたユニークな建築物であることを述べられました。

ディスカッション

パネリストからの報告後、今回のテーマであります近現代の歴史的建造物の保存活用、特に都橋商店街ビルの保存活用に向けてのヒントをパネリスト各氏から意見を求め、その意義と価値について論じました。

また後段では、戦後建築の特徴やこれらの保存をいかに進めていくべきか、といった事柄を論じました。

鈴木氏の巧みなコーディネートでディスカッションは進行し、「保存建築に対し市民が愛情ある目を光らせ続けること」こそ建物は残るのではないかと、という言葉が導き出しパネルディスカッションは終了しました。



藤岡氏の話題提供の様子



パネルディスカッションの様子

ピアノ演奏 後藤 泉

解説 長谷川 正英（横浜市環境創造局）

司会 米山 淳一（公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事）

今回で第6回目となるコンサート in ヘリテイジは平成30年2月15日に横浜市山手のベリックホールで開催されました。本コンサートは横浜の歴史的建造物やまちの魅力を伝えるピアノコンサートでもあります。会場となりました山手のベリックホールは、アメリカ人建築家のJ・H・モーガンが設計したスパニッシュ様式の西洋館です。ちなみに本コンサートの副題「建築家J・H・モーガン生誕150年記念」とあることから、ここベリックホールが会場として選ばれたことを付け加えておきます。

当日のピアノコンサートは、毎回ながら美しい音色を奏でる後藤泉さんの繊細でしかも力強く響く演奏に参加者たちは至福のひと時を味わうことができました。さらに演奏の曲間には、長谷川正英氏により曲の持つ歴史的背景、作曲者の意図、その曲のイメージといったものを横浜という土地柄とも関わりを持たせながら、後藤さんとの掛け合いで解説をしていただきました。

館内のホールには約60名もの参加があり、少し肌寒い夕べでしたが、聴衆は心温かく音楽を楽しめた一夜になったのではないかと思います。



音楽解説の時間

野毛都橋商店街ビルの賑わい

ヨコハマヘリテイジの第一号所有資産となった野毛都橋商店街ビルの賑わいは、まさに地域活性化の象徴であります。最近では、人気スポットとして横浜市内にとどまらず東京や近郊から訪れる人たちが多くいます。その勢いから映画、テレビ、雑誌等の撮影地としても注目を集めています。ファッション誌「ヴォーグ ジャパン」5月号では、各店舗の看板が道に沿って緩やかに立ち並ぶ背景の中を双子の美人モデルが闊歩する姿が掲載されています。今や女性にも人気の場所となっています。

野毛のランドマークとして輝きを放つ様子はまさに観光資源でもあるわけです。

現在ここは、近現代の歴史的建造物の調査対象にもなっていて、来年度は、国登録有形文化財に向けた申請を進めてゆく予定です。



川面に映る都橋商店街ビル

旧湘南電気鉄道 瀬戸変電所の調査を実施

京浜急行電鉄の黄金町以南の浦賀と逗子までは、かつて湘南電気鉄道でした。その遺構が昭和4年竣工の瀬戸変電所で、今も京急金沢八景駅に隣接する格好で存在しています。ホームやホーム上屋が延長された関係でその巨大建造物の存在は分かりにくいですが、上りホームの浦賀方先端付近から見ればその全容に驚きます。シンプルでモダンな建造物はバラ窓を備え、洋風のデザインとなっています。

湘南電気鉄道時代の唯一の建造物で、貴重な歴史的建造物でもあります。西澤秀和氏（関西大学教授）によれば、軍の意向に沿った設計・施工で建設されており、頑丈な造りであるとのこと。ヨコハマヘリテイジでは、構造や耐震調査等を行い、湘南電気鉄道時代の生き証人として将来にわたり保存する計画です。



瀬戸変電所外観